

|           |   |  |
|-----------|---|--|
| 科目名       | 社会調査法Ⅰ  |  |
| 担当者       | 河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko   |  |
| 科目情報      | 人間文化<関連> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次   |  |
| 科目概要      | 授業内容  | 複雑な社会現象を捉えるための手段として様々な分野で重要性を増している社会調査についての基本的事項を学ぶ。専門的なくつかの社会調査科目を学ぶ第一歩の科目に位置づけられる。   |
|           | 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の有効性と限界、社会調査に求められる「科学性」を理解する。</li> <li>・身近な社会調査である国勢調査・世論調査について基本的事項を確実に理解し、説明できる。</li> <li>・基本型である統計的調査・記述的調査について説明できる。</li> <li>・調査者に求められる倫理について、確実に理解する。</li> </ul> |
| 授業計画      | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会調査とは何か、社会調査の真の目的・関心は何か</li> <li>(2) 社会調査の歴史—人口統計と社会問題の調査・調査技術の高度化・多様化</li> <li>(3) 社会調査の実例①—国勢調査・官庁統計</li> <li>(4) インターネットで「政府統計の総合窓口」を覗いてみる</li> <li>(5) 統計データを加工すると、何が見える？</li> <li>(6) 社会調査の実例②—世論調査</li> <li>(7) 社会調査の実例③—マーケティング・リサーチ</li> <li>(8) 社会調査の種類①—量的調査・統計的調査</li> <li>(9) 統計的調査の具体的調査方法</li> <li>(10) 社会調査の種類②—質的調査・記述的調査</li> <li>(11) 質的調査の実例</li> <li>(12) 質的調査で分かること・分からないこと</li> <li>(13) 量的調査と質的調査の比較—技法としての有効性と限界を認識する</li> <li>(14) 社会調査と調査者の倫理</li> <li>(15) 総まとめ</li> </ol> |  |
| 自学自習      | 事前学習  | 教科書の指示部分を読んでおくこと。  |
|           | 事後学習  | 不定期に授業内容の復習小クイズをするので、確実に復習しておくこと。  |
| 使用教材・参考文献 | <p>【教】大谷信介他 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』 ミネルヴァ書房、2004年。社会調査法Ⅱでも使用する教科書である。</p> <p>【参】宮内泰介 『自分で調べる技術—市民のための調査入門』 岩波書店、2004年</p> <p>谷岡一郎 『「社会調査」のウソ』 文春新書、2000年</p>   |  |
| 成績評価方法と基準 | <p>&lt;方法&gt;レポート等の課題遂行15%・定期筆記試験85%</p> <p>&lt;基準&gt;科目目標の到達を重視する。到達していないものは不合格とする。</p>  |  |
| 備考        | 社会調査教育の基礎的科目であり、「社会調査士資格」取得のための必修科目の1つでもある。   |  |